**コリント人への手紙第一15章20-34節「キリストに属する者の復活」**

**小池 宏明 牧師**

今日は、私たちの教会では、召天者記念礼拝。先に天に召された方々を偲びつつ、主なる神様の救いの恵みを覚えながら、主なる神様に礼拝をおささげする。私たちは誰でも例外なく、この肉体を脱ぎ捨てる「死」を迎える。救い出された愛する兄弟姉妹が「死」を迎えた場合、どうなるのか、とても気になることだろう。今日の聖書は、地上の肉体を脱いで天に召されたひとり一人が、将来、特に世の終わりにどうなるのか記している。私たちは肉体の死を迎えて終わりではなく、永遠へと続く大きな希望があることを確認したい。

**＊二つの道**

パウロは、最初にキリストの復活が事実であることを語る。そして22節「**アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。**」と明言する。人類最初の人アダムは、神様との約束を守ることができず罪を犯したので、人は罪の刑罰として「死」ぬことが定められた。本来、神様と人間は親密な関係にあったが、聖なる神様と罪ある人間との間に交わることの無い断絶ができた。神様から離された人間は、肉体は生きていても、魂（心）は死んでいる。しかし、救い主イエス・キリストが、父なる神様と私たちの間に入って仲裁して下さった。罪のない神の御子イエス・キリストが人間と同じ肉体を持って地上に生まれて、十字架にかかって罪深い人間の身代わりとなって死んで下さった。それで、人間は神様との関係を回復する道が開かれたのだ。すべての人間の前には、二つの道がある。私たちを創り出し、救いの道を用意して下さった主なる神イエス・キリストを信じていのちを得るのか、それとも、罪を犯したアダムがもたらした神様とのつながりが切れたままで人生を終えるのか、どちらの道を選ぶのか、常に問われている。

**＊キリストに属する者は新天新地を受け継ぐ**

こうして、ついに人生の終わりと共に世の終わりを迎える。世の終わりを迎える前に、キリストの再臨がある。再臨の時に死人の復活が起こる。（23-26節）そして、復活の主イエス・キリストとキリストに属する信徒たちが、新しい天と新しい地を治めることになる。今、地上に生きている私たちも、すでに天に召された兄弟姉妹たちも、キリストに属する者はすべて、キリストと共に、神の家族、神の民として、究極的な幸いと喜びに包まれるのだ。その時を楽しみにしながら、期待しながら、しばしの別れを乗り越えて行きたい。